

文学部 人間関係学科(心理領域)

科目／学年		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	合計単位
教養科目	基礎ゼミ	導入演習	1							36
		基礎演習	1							
	コア1	キャリア教育Ⅰ	2	キャリア教育Ⅱ	2					
		災害支援と防災対策	2	インターンシップ基礎	1					
	コア2	哲学	2							
		倫理学	2							
	コア3	心理学Ⅰ・Ⅱ	4							
		法学(日本国憲法)	2							
	コア4	人権教育論	2							
		ボランティア活動論	2							
	コア5	情報リテラシー	1	AI基礎	1					
		数理・データサイエンス入門	2	データエンジニアリング基礎	1					
英語1		1	TOEIC1	1						
英語2		1	TOEIC2	1						
英語3		1								
英語4		1								
外書講読	ドイツ語基礎1	1								
	ドイツ語基礎2	1								
小計	—	29	—	7	—		—			
専門科目	共通専門科目									88
	小計	—	0	—	0	—	0	—	0	
	演習科目		発展演習1	1	専門演習1(心理)	1	卒業演習1(心理)	1		
			発展演習2	1	専門演習2(心理)	1	卒業演習2(心理)	1		
	小計	—	0	—	2	—	2	—	2	
	学科専門科目	心理学概論Ⅰ・Ⅱ	4	公認心理師の職責	2	社会・集団・家族心理学	2	産業・組織心理学	2	
		人体の構造と機能及び疾病	2	心理学統計法	2	社会学と社会システム	2			
		社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ	4	神経・生理心理学	2	刑事司法と福祉	2			
		心理学と心理的支援	2	学習・言語心理学	2	レクリエーション指導法	2			
				精神疾患とその治療Ⅰ・Ⅱ	4					
				教育学	2					
	小計	—	12	—	14	—	8	—	2	
	コース専門科目	発達心理学概論	2	感情・人格心理学	2	健康・医療心理学	2	関係行政論	2	
		臨床心理学概論	2	障害者・障害児心理学	2	司法・犯罪心理学	2	心理的アセスメントⅠ・Ⅱ	4	
				教育・学校心理学	2	知覚・認知心理学	2	心理実習	2	
				心理学研究法	2	心理学実験Ⅰ・Ⅱ	4			
				福祉心理学	2	心理学的支援法Ⅰ・Ⅱ	4			
						心理演習Ⅰ・Ⅱ	2			
						心理実習	2			
								卒業論文	6	
	小計	—	4	—	10	—	18	—	14	
合計	—	45	—	33	—	28	—	18	124	
主要科目1	科目名	心理学概論Ⅰ・Ⅱ		公認心理師の職責		心理実習		心理的アセスメントⅠ・Ⅱ		
	特徴	心理学がカバーする膨大な範囲のそれぞれを、少しずつつかいつまんで味わっていくような授業であり、心理学という学問を一年を通して概観し、心理学という学問への導入を行う。		授業のテーマは、公認心理師というプロフェッショナルとして働くためのA to Z を伝える超広域のものである。グループワークによる学びとプレゼンテーションを行うことで、他者と協働する経験を得る。		3年生前期から1年半を通じて、公認心理師資格所得のための実習を行う。実習は学内実習と学外実習に分かれており、学外実習は医療・教育・福祉・司法・産業の5領域にわたり実習を行う。		臨床心理学的援助における重要な柱の一つである心理アセスメントについて学ぶ。各種心理テストを実際に実施・体験し、心理テストの理論、実施方法、解釈、所見について学ぶ。		
	目的	心理学の成り立ちを学び、人の心の基本的な仕組み及び働きを知るために、心理学が内包する幅広い領域の、膨大な知見の一端を学んでいくことを目的とする。		公認心理師の職責に関する知識の獲得を目的とする。公認心理師の職責を学ぶことを通じて、心理師としての働き方やあるべき姿を具体的に思い描き、そこに到達するために必要なものを各人が学修を通じて見出していくことを期待する。		公認心理師に求められる、基本姿勢・知識・アセスメント・面接技法など、実習を通して体験的に学ぶことを目的とする。		心理アセスメントとは、クライアントの知的側面やパーソナリティーとその背景要因に関する情報を組織的に収集し、クライアントに対する支援を決定するための一定の仮説を組み立てることである。具体的なアセスメントについて体験的な理解を深めることを目的とする。		
主要科目2	科目名	臨床心理学概論		発達心理学概論		心理実験Ⅰ・Ⅱ		卒業論文		
	特徴	臨床心理学は心の問題を援助することを目的とした心理学で、フロイトが催眠療法から精神分析を発展させたのがその始まりである。本講義では、臨床心理学の歴史を学ぶと共に、臨床心理学の発展について概観する。		また、実際に調査用紙などを随時とり、自分のデータをもって理解を深めさせる。そのため出席が最低条件です。心理テストを体験する。調査質問紙をとる。実際に実験に参加するなど演習的側面もある。		毎回の実験については、心理学担当教員がオムニバス方式で実施する。そしてそれぞれの実験にTAとして大学院生が入り、細かい指導を行う。		3年生より所属するゼミにおける個別研究のまとめとして卒業論文を作成する。		
	目的	本授業では、以下について学ぶことを目的とする。 (1)精神分析と催眠療法の相違を学ぶ。 (2)フロイトの後、ユングの分析心理学、ロジャーズのカウンセリング心理学などがどのように発展したかを学ぶ。		本講義では、特に心理学・医学における研究法を紹介する。		各自実験を体験し、心理学の実験がどのように実施されているのかを学習することである。それと同時に、心理学実験のレポート作成に真摯に取り組み完成させることである。基本的には、実験の実施→統計解析→レポート作成		自分自身で問題点と発見と検証をおこない、必要により調査・実験など行い、文章にまとめる力を総合的に育む。		

文学部 人間関係学科(社会福祉領域)

科目／学年		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	合計単位		
教養科目	基礎ゼミ	導入演習	1							33		
		基礎演習	1									
	コア1	キャリア教育Ⅰ	2	キャリア教育Ⅱ	2							
		災害支援と防災対策	2									
	コア2	哲学	2									
		心理学Ⅰ	2									
		心理学Ⅱ	2									
		スポーツと健康	2									
		生命倫理学	2									
	コア3											
		法学（日本国憲法）	2									
		地域福祉論	2									
		ボランティア活動論	2									
	コア4	数学基礎Ⅰ	1	AI基礎	1							
		情報リテラシー	1									
		数理・データサイエンス入門	2									
	コア5	英語1	1									
		英語2	1									
英語3		1										
英語4		1										
小計	—	30	—	3	—		—	0				
専門科目	共通専門科目									91		
	小計	—	0	—	0	—	0	—	0			
	演習科目		発展演習1	1	専門演習Ⅰ（社会福祉）	1	卒業演習Ⅰ（社会福祉）	1				
			発展演習2	1	専門演習Ⅱ（社会福祉）	1	卒業演習Ⅱ（社会福祉）	1				
	小計	—	0	—	2	—	2	—	2			
	学科専門科目	社会学と社会システム	2	権利擁護を支える法制度	2	社会保障Ⅰ	2	精神障害リハビリテーション論	2			
		心理学と心理的支援	2	社会福祉調査の基礎	2	社会保障Ⅱ	2					
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2	刑事司法と福祉	2	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2					
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2					
		社会福祉の原理と政策Ⅰ	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	保健医療と福祉	2					
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	2	児童・家庭福祉	2	貧困に対する支援	2					
		医学概論	2	高齢者福祉	2	福祉サービスの組織と経営	2					
		障害者福祉	2	精神医学と精神医療Ⅰ	2							
		精神保健福祉の原理Ⅰ	2	精神医学と精神医療Ⅱ	2							
		精神保健福祉の原理Ⅱ	2	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2							
				現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2							
		小計	—	20	—	22	—	14	—		2	
		コース専門科目	ソーシャルワーク演習Ⅰ	1	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2						
			ソーシャルワーク演習Ⅱ	1	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	2						
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		2	ソーシャルワーク演習Ⅲ	1							
	ソーシャルワーク実習Ⅰ		2	ソーシャルワーク演習Ⅳ	1							
				ソーシャルワーク演習Ⅴ	1							
				ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2							
				ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2							
				ソーシャルワーク実習Ⅱ	4							
							卒業論文	6				
	専門科目	48	—	0	—	6	—	15	—		6	91
	合計	—	48	—	35	—	31	—	10		124	
	主要科目Ⅰ	科目名	社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	社会保障Ⅰ	精神障害リハビリテーション論						
		特徴	日本の社会福祉に大きく貢献した社会福祉本質論争などの歴史や理論、実践事例を交えて講義を展開する。	ソーシャルワークにおけるものの方の見方・考え方の特徴について理解する。	他者とのコミュニケーションと専門職としての責任を重視するため、ペアワーク、グループワークを多用する。	精神障害リハビリテーションとソーシャルワークの関係について学ぶ。						
		目的	社会福祉の概念や歴史を踏まえ、政策・制度と実践との関連性を学び、社会福祉についての考察を深める。	人と環境の交互作用に関する理論やソーシャルワークの展開過程など、ソーシャルワークの基礎を学ぶ。また、具体的な技術を学び、ソーシャルワークについて理解を深める。	社会保障の理念とその史的展開や社会保障制度の機能や体系について学習した上で、わが国の社会保険制度（年金保険、医療保険）について理解を深めていくことを目的とする。	精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解するとともに、精神障害リハビリテーションのプログラムや実態機関についての理解を深め、援助場面で活用できるようになることを目的とする。						
主要科目Ⅱ	科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	ソーシャルワーク演習Ⅰ	ソーシャルワーク実習Ⅱ	卒業論文							
	特徴	ソーシャルワークの実践事例や、国内外の動向を踏まえ、ソーシャルワークの理解を深める。	ソーシャルワークに必要な知識や技術をグループワークやロールプレイなどを通して体験的に理解する。	社会福祉士は240時間以上、精神保健福祉士は210時間以上の現場実習を行う。	3年生より所属するゼミにおける個別研究のまとめとして卒業論文を作成する。							
	目的	ソーシャルワーク(社会福祉実践)の理念と歴史から、ソーシャルワークとは何かについて理解を深める。	ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性をふまえ、社会福祉士・精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を身に着ける。	ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士・精神保健福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。	自分自身で問題点の発見と検証をおこない、必要により調査・実験など行い、文章にまとめる力を総合的に育成。							

科目／学年		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	合計単位
教養科目	基礎ゼミ	導入演習(人間関係)	1							50
		基礎演習(人間関係)	1							
	コア1	キャリア教育Ⅰ	2	キャリア教育Ⅱ	2					
		大学史と別府大学	1	インターンシップ基礎	1					
	コア2									
		体育実技Ⅰ	1							
		体育実技Ⅱ	1							
		哲学	2							
		倫理学	2							
	コア3	心理学Ⅰ	2							
		心理学Ⅱ	2							
		法学（日本国憲法）	2	ボランティア活動論	2					
		行政法	2	人権教育論	2					
		社会学	2	国際関係論	2					
		経済学	2	マスコミ論	2					
		法律学	2							
	コア4	政治学	2							
	コア5	生物学	2	AI基礎	1					
		情報リテラシー	1							
		数理・データサイエンス入門	2							
		英語1	1							
	小計	英語2	1							
		英語3	1							
		英語4	1							
専門科目	共通専門科目	地方自治論	2	生涯学習論Ⅰ	2					74
				生涯学習論Ⅱ	2					
	小計	—	2	—	4	—	0	—	0	
	演習科目			発展演習Ⅰ(人間関係)	1	専門演習Ⅰ(教育・生涯スポーツ)	1	卒業演習Ⅰ(教育・生涯スポーツ)	1	
				発展演習Ⅱ(人間関係)	1	専門演習Ⅱ(教育・生涯スポーツ)	1	卒業演習Ⅱ(教育・生涯スポーツ)	1	
	小計	—	0	—	2	—	2	—	2	
	学科専門科目	社会福祉の原理と政策Ⅰ	2	児童・家庭福祉	2					
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	2	障害者福祉	2					
		心理学概論Ⅰ	2							
		心理学概論Ⅱ	2							
	小計	—	6		4	0	0	—	0	
	コース専門科目	教育学	2	障害者福祉　・障害児心理学	2	公民科教育法Ⅰ	2	教育実践演習(中・高)	2	
		臨床心理学概論	2	教育・学校心理学	2	公民科教育法Ⅱ	2	教育実習Ⅰ	2	
		発達心理学概論	2	教育調査論	2	地域教育論	2			
				スポーツ社会学	2	総合的な学習の時間の指導法	2			
				スポーツ教育学	2	特別活動論	2			
				コーチング論	2	生徒指導論(進路指導を含む。)	2			
				トレーニング論	2	教育相談論	2			
				教育方法論(ICT活用を含む。)	2					
				教育の制度と経営	2					
				心理学研究法	2					
				教職論	2					
				教育原論	2					
				特別支援教育論	2					
				教育課程論	2			卒業論文	6	
	小計	—	6		28		14	—	10	
	合計	—	50	—	46	0	16	—	12	124
主要科目1	科目名	地方自治論		教育調査論		総合的な学習の時間の指導法		教育実践演習(中・高)		
	特徴	地方自治の理念に加え、地方自治法の規定に基づき、首長と議会に役割や住民の直接参政の制度等にも触れる。		教育現象をとらえるための科学的手法である統計調査を学ぶ。		総合的な学習の時間に関する指導計画の作成とそれをもとにした指導案の作成及び模擬授業の実践から、教育目標を達成するための方法と技術を修得する。		教職に関する科目の担当教員と教科に関する科目の担当教員が協力し、教員として求められる4つの事項(1)使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、(2)社会性や対人関係能力に関する事項、(3)生徒理解や学級経営等に関する事項、(4)教科の指導力に関する事項を踏まえ、各受講者の教員として必要な資質能力の最終的な形成と確認を行う。		
	目的	地方自治の理念を憲法との関連も含み学び、明治以降の自治の歴史を振り返り、中央・地方関係を論じていく。		教育に関する諸統計調査、主に官庁統計や研究調査の種類や読み方、統計調査の基礎知識・技法(平均、比率、単純集計、クロス集計等)を身につけることを目的とする。		各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。		本演習では、教員として最小限必要な資質能力が身に付いているかが確認されることを到達目標とする。		
主要科目2	科目名	教育学		コーチング論		地域教育論		卒業論文		
	特徴	グループごとに、調べ学習・ディスカッション・プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションについては、グループで協力しながら、全員が発表PPTの作成・プレゼンテーションを行う。		コーチングとは、スキル(技能)向上のための指導・助言のことである。主にスポーツ分野におけるコーチングについて取り扱うが、あわせて社会的スキルなど一般的なものについてもとりあげる。		社会教育に加え、社会教育と学校教育が交差する主権者教育についても実践的に学ぶ。		3年生より所属するゼミにおける個別研究のまとめとして卒業論文を作成する。		
	目的	これまで小学校から高等学校まで受けてきた学校生活・体験をもとに「教育」という営みを振り返って、日本の教育の特徴を理解することを目的とする。		コーチングを受ける、あるいはするという受講生自身の体験を理論として整理していく。		地域教育の歴史の実態について、社会教育がどのようなに学校教育と関連を持ちながら成立してきたのかを学ぶ。		自分自身で問題点と発見と検証をおこない、必要により調査・実験など行い、文章にまとめる力を総合的に育む。		